

「キャリア・インサイト」の活用

—キャリア教育、就職支援、キャリア・コンサルティングの一体化のために—



日本産業カウンセリング学会特別顧問
元筑波大学教授

木村 周

キャリア・ガイダンスのための統合的なCAGS（コンピュータ支援ガイダンス・システム）「キャリア・インサイト（統合版）」が開発されました。

自己理解、職業理解の支援は、キャリア・ガイダンスの基本です。今日我が国社会は、少子高齢化、技術革新、国際化の嵐の中で、今までにない構造変化に見舞われています。特に、学校教育、就職支援、働く人の職業能力開発の分野において、生涯を通じたキャリア形成支援が求められています。

学校教育におけるキャリア教育、学校から働く世界に移行する就職支援、職場に入ってから職業能力開発支援を、義務教育から職業生活引退後まで、生涯を通して求められています。すなわち、「働くことを通じて、人生如何に生きるか」がすべての人に求められています。

自己理解はキャリア・ガイダンスの出発点です。

自己理解は一般に、自己自身を分析し、それを統合するプロセスをとりまします。分析とは自分をいくつかの視点から見つめ、観察、検査、測定、評価し、各視点ごとに観察された自分の特徴を描写することです。

統合とは、分析された自分の特徴を全体として描写することによって、それまで漠然としていた自己像を明らかにして、自分の言葉で表現することです。

キャリア・インサイト（統合版）では、能力、興味、価値観、行動特性の四つのアセスメント・ツールが利用でき、設問に回答すると、それぞれの特性についてのプロフィールが作成され、コメントとともに表示されます。

自己理解と一体となった職業理解が、キャリア・ガイダンスには絶対必要な分野です。

人は知らないことを選択できません。また、知らないことよって動機づけられません。そのため、職業理解のための職業情報は、キャリア・ガイダンスには不可欠な要素であり、また、職業情報は、正確、最新であり、活用しやすく、ステレオタイプでないことが求められます。

キャリア・インサイト（統合版）では、474の職業について、「職業名から」、「仕事の分野から」、「資格情報から」、「能力の特徴から」、「興味の特徴から」、の五つの検索方法により検索できます。個別職業としては、職務内容のほか、関連する能力、興味、資

格等についての情報が提供されます。

キャリア・コンサルティングとは、働く人に対するキャリア・ガイダンスのことで、平成13年に「職業能力開発促進法」で定められ、企業や就職支援の世界で実施されています。それは「労働者がその適性や職業経験等に応じて自ら職業生活設計を行い、これに即した職業選択や職業訓練等の職業能力開発を効果的に行うことができるよう、個別の希望に応じて実施される相談その他の支援」と定義されています。これは、まさに働く人に対する進路指導、職業相談そのものです。

キャリア・インサイトは、18〜34歳の若年求職者、大学、専門学校などの在学生、卒業生向き（EC）と、35〜69歳の職業経験のある人を対象にしたもの（MC）で、今日の「生涯を通じたキャリア形成支援」に最もふさわしい、長年にわたる科学的研究、客観的なデータに基づき作成された対話型、コンピュータ支援型の洗練されたガイダンス・システムです。

先行き不透明な今日、我が国の若年、中年、高齢、老年期のすべての働く人のキャリア形成のために活用されることを希望します。